

個別指導学院アシストの学習指導方針について

～志望校合格と点数アップのために～

2024.9 版

はじめに

個別指導学院アシストの代表の前田敏秀と申します。

このたびは本小冊子をお読みくださりありがとうございます。

本学院は開講して2024年4月で4年目の学習塾になります。

私自身の経歴としましては、保険業界を経て、大手塾などを経験し、集団授業、個別指導、両方の指導に関わってきました。(余談ですが、店頭パンフレットたての横に置いてある保険パンフレットの保険商品も保険代理店として現在も取り扱っております。)

対象の生徒様は公立小学校の生徒様、中学受験生、中学生、中高一貫生、高校生、大学受験生など様々です。

多くの塾様は公立の中学校の専門の塾様が多いですが、地域密着の塾としては、大学受験を一つのゴールとして、受験にかかわる総合的なアシストをさせていただいております。

実際のところ、2024年1月現在におきましては、通われている生徒様も公立中学(蒲生中、董中など)は少なく、私立の中高一貫校の生徒様、および高校生の生徒様のほうが多いです。

この小冊子では現在における肌で感じている教育の現場の現状、及び問題点、そして、アシストの考えをお伝えいたします。

その上で、ご関心をおもちいただければ、ぜひともまずは個別説明会、体験授業にお越しくださいませ。

小学校、中学校、中高一貫校、高校における現場から見える学校の現状と課題、そしてアシストができる問題解決についてお話させていただきます。

小学生指導につきまして

・小学校の現状と問題点

今、小中学生の学力低下、特に読解力の低下が問題視されています。

実は、原因はわりとはっきりしていてスマホだと言われています。

読解力と書く力の低下については、アシストを開講する以前から長年感じている問題です。

国語における「読む力」と「書く力」の低下です。

国語とは日本語です。

国語が苦手な生徒さんは漫画すら読みません。小説や物語などはなおさらです。

また一般常識としての童話をしりません。「シンデレラ」「浦島太郎」「白雪姫」などの話を知らない生徒さんも多いです。

もし、小学生のお子さんをお持ちの保護者の方がこの冊子を読まれていれば、お子さんはそういった童話をお読みでしょうか？

ぜひ聞いてみることをおすすめします。

そして、どんなあらすじであったか聞いてみてください。

小学校の高学年でこたえることができなければ、国語力は黄色信号が点滅しています。

また小中学生全体の読む力が弱く、中1の平均的な国語の点数をとる生徒さんでも、小三レベルの国語の問題に苦戦する生徒さんも多いです。

読む力が弱い原因の一つが、長い文章を読むことに耐えられる集中力が続かないことです。

国語の苦手な生徒さんはA4くらいの問題が読めません。

集中力が続かないのです。

A4というところの冊子でここまでかいた文章量くらいです。

しかも実際には小学生向けですから、もっと大きな字で行間も開けて書いてありますので、A5くらいの分量です。

この分量を読む集中力が続かないのです。

読めないというは2つの段階があります。

一つは文字通り読めなくて、集中力が続かないので読むこと自体を投げ出すのです。

アシストでは、そういう場合は講師が声を出して読んで、生徒にあとに続いて声を出して読んでもらいます。

次の「読めない」の段階は文脈が読み取れるかどうかです。

具体的には文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握することができるかどうかです。

国語の苦手な生徒さんはこれできません。

今の例でいうと前の文の「これ」が『文章ででてくる「これ」という指示語が的確に把握すること』が読めない生徒さんも多いです。

特に中学受験では長い文章が出題されます。

イメージとしてはA3両面に文章ぎっしりくらいのイメージです。

この長い文章を、集中力を途切れさせず、早く的確に読むことが課題になります。

アシストでは問題を解くだけでなく、まずは生徒様によっては本を読むことに慣れてもらうこと、そして本を読むたのしさを知ってもらうことから始めます。

次に書く力の問題についてです。

この問題は表面的にはなかなかわかりません。

表面的に現れるのは「記述問題」が苦手という程度です。

ですから、小学校、中学校の間は大きな問題として表面化していないだけのことです。

なぜなら、記述問題の点数配分は小さく、テストの点数をとるためには記述問題にこだわるよりも、暗記問題をしっかりマスターしたほうが、点数が稼げるからです。

しかし、高校生になってから、書く力が弱いことについて影響力が如実にでてきます。

とくに英語で書く力の影響が出てきます。

英語と国語は言語学として表裏一体です。

なぜなら英語を日本語訳にするときに国語としての書く力や読む力が求められるからです。

英語の苦手な高校生は国語の書く力が弱いです。

そもそも日本語の作文が苦手です。

英語以前に日本語としておかしな文を書きます。

具体的には英単語の意味を全部調べて、文法的な修飾、被修飾の関係を全部整理して、あとは多少表現を変えながら言葉を並び替えればいいだけにも関わらず、それができないこともたくさんあります。

・10歳の壁

ところで、10歳の壁という言葉が聞かれたことはありますか？

このころから生活面では親離れがはじまり親の評価よりも友人の評価を気にするようになります。

一方、他人と比べるようになるので、周りと比べて自分に劣等感を感じる事もでてきます。

運動力にも差がつき始めます。

学力面でも、急に勉強が得意な生徒と苦手な生徒で差が付き始めます。

これらは、小学生3～4年生あたりでみられる現象で学習面では躓く生徒もでてきます

今までできていた勉強が急にできなくなります。

これはあくまで経験則ですが、躓く生徒さんは次のような生徒が多いです。

・あきっぽい・集中できない。・めんどくさがりである・先生の話をかかない
いわゆる頭の良さはあまり関係がないように見えます。

例えば、九九が完璧にできて、足し算引き算の暗算が早く正確にできて、筆算を面倒くさがったり、計算過程を書かない生徒などは将来的には伸び悩みます。

一見、計算も決して早くない生徒でも、集中して問題をやり切る生徒はその時は時間がかかっても小学校高学年では完全に逆転します。

大事なことはきちんと机に迎える集中力と体力を養うことだと思います。

・小学生における国語の重要性と現在の学校教育の課題

国語に関して言いますと、点数がよい生徒は大して勉強していなくてもずっと点数がいいです。

ずっとというと、それこそ大学受験まで点数がよいです。

一方苦手な生徒はなかなか点数があがりません。

それはなぜでしょうか。

国語とはスポーツで言うと基礎体力のような科目です。

国語がよくて他の成績がわるい中学生は少し勉強するだけで、他の科目の成績もあがります。

一方、数学・理科などが得意でも国が苦手な中学生は五教科でみると点数的に壁にぶつかります。

具体的には公立中学5教科で450点を超えることが難しくなります。

国語とは集中力、読解力、思考力などが総合的に求められます。

人間は当然ながら言葉でものを考えますので、国語力のある生徒は成績が伸びやすく、国語力の低い生徒は成績が伸び悩みます。

・国語力が一番のびるのはいつか

教科としての国語力が伸びるのは小学生のころが一番伸びると考えています。

点数を伸ばすという意味では国語が一番難しいです。

例えば、社会など暗記系の科目は高校受験対策のとき、夏休みに一生懸命勉強すれば50点くらいしかとれなかった生徒が80点くらいになることは十分ありえます。

しかし、国語はそんな急に伸びることはまずありません。

徐々に伸ばしていくしかありません。

では国語力が一番伸びるのはいつかということ小学生のときです。

そこそこ難しい中学受験を経験した生徒で国が極めて苦手という生徒は少ないです。

中学生でも漢字をのぞけば有名大学の現代文でさえ合格点をとる生徒もいます。

それほど上位の私立中学生の国語力は高いです。

その背景としましては、中学受験に国語は必須科目で、かつ、漢字、読解力など相当な数をトレーニングするからです。

しかし、一方、もともと国語が得意な生徒が大した中学受験のための勉強をしなくても合格することもあります。

そういう生徒さんは私立中学に入ってから苦労しがちです。

なぜなら、私立中学は入ったあともかなりハイペースで勉強が進むからです。

地頭の良さではいった生徒は勉強することに慣れておらずそこで苦労します。

アシストでは小学校のころから国語力アップを意識した指導をしています。

・小学生の英語教育

次に、小学生における英語についてです。

現在、小学校でも英語の授業が行われていますが、ほとんどの場合、全く身につかずに中学校のカリキュラムが進んでいます。

生徒目線では小学校から中学校にあがって急に難しくなっているはずですが。

アシストでは小学校のうちに英検4級は取得することを推奨しています。

すると、中学校にあがっても、得意科目になっていくことでしょう。

・小学校の英語の授業の実態

小学校でも英語教育が始まっています。

しかし、あなたは小学校英語教育そしてその先の中学校の英語の実態をご存知でしょうか。

小学校で英語の授業がはじまり、教育現場ではどうなったか、現場を見ている目線では、単に格差が広がっただけのように感じます。

それもできる子がさらにできるようになったわけではなく、単についていけなくなり、英語ができなくなったり、中学校に入って嫌いになる生徒が増えているだけのように感じています。

具体的にはこういう生徒が増えているようです。

1. アルファベットの書き方に変なクセが付く

中途半端に教えて、修正しないのでアルファベットの書き方に変なクセがついて中学校

に上がったときに直すのが大変になります。

2. おかしな発音が身につく

英語の発音は学校教育の永遠の課題ではありますが、おかしなリスニングとスピーキングが身につくについて、ますます本当の英語が聞き取れなくなります。

3. 中学校でいきなりつまづく。

小学校で英語が始まったと言っても、実質的にテストらしいテストはありません。

旧課程の中学校の最初の定期テストではアルファベットとせいぜい、I am, You are くらいでした。しかし、今の最初のテストでは「小学校で英語を覚えている」前提で授業が進みます。

その結果、多くの生徒が英語につまづきます。

ゆえに小学生のころから英語対策の通塾をおすすめします。

中学受験対策について

アシストではご家庭の経済力に余裕があり、生徒本人が嫌がっていないのであれば中学受験をおすすめしています。

理由の一つが、公立中を卒業してからの国公立大、特に理系学部の受験が非常に難易度が高いからです。

ご自身が大学受験をされた保護者様も多いと思いますが、保護者の皆様の世代と比べると、理系分野については約1.5倍勉強する量が多くなっています。

そして、保護者様の世代よりも国公立大と関関同立の難易度の差が大きいです。

保護者様の世代であれば地方の国立よりも関関同立を選ばれた人も多かった世代ですが、時代は変化しています。

決して易しいわけではないですが、文系については、関関同立は保護者様の世代よりも易しくなっていると思います。

それは背景として少子化の問題があります。

一方、国公立大は難しくなっています。

その背景としましては、理系の勉強量が増えていることと、英語が難しくなっていることがあります。

理系の勉強量が増えているというのは前述のとおりですが、カリキュラムについて、もう少し具体的に申し上げます。

中高一貫校多くは公立にくらべて、おおよそ一年早くカリキュラムが進みます。(公立準拠の学校もあります。)

そして高2までに高校の範囲をほぼ修了し、高3は受験対策を行います。

英語は公立と比べて非常に早いというわけでもないですが、数学はどの私立中学も基本的に進むペースが早いです。

なぜかといいますと、高2までに、数学のカリキュラムを終わらせて、高3はひたすら復習と国公立の2次試験対策をする必要があるからです。

公立トップの文理学科に行く生徒でも、国公立大を目指す生徒は半分くらいは浪人します。

その理由の多くが、公立高校では2次試験対策が間に合わないからです。

理系の厳しさは国公立大だけではありません。

関関同立でも数学は公立中、公立高校にいくと時間的にかなり厳しいものになります。

・アシストの中学受験対策について

アシストは中学受験を積極的におすすめしています。

しかし、中学受験は授業料が高額になることが多いです。

中学受験専門塾であれば年間に100万円を超えることもあります。

アシストではICT教材を活用することでコストを抑えて、年間40万円程度の授業料で高品質な授業を提供いたします。

・他塾併用につきまして。

集団塾との併用も可能です。

ただし、おなじ教科の併用は推奨していません。

例えば他塾で受講されている算数の分からない問題を個別で教えてほしいなどです。

こういうご利用方法は推奨していません。

なぜなら、塾ごとで教えかたが違い、生徒が混乱するからです。

特に国語・算数・理科は教えかたも違いますので。

社会のような暗記科目であれば、同じ教材を使えばさほど違いはないので可能ですが。

他塾と違う科目を勉強されることは問題ありません。

・中学受験をいつから始めるべきか。

もちろん、志望校にもよりますが、この地域から通いやすい、常翔学園、大阪国際さんレベルであれば中学受験勉強を始めるには5年生からは始めたいです。

なぜなら6年生の1学期には小学校のカリキュラムを終わりたいからです。

6年生から始められる場合は特に算数をかなり早いペース出す必要がありますので、ICT教材と個別指導との併用もおすすめしています。

・中学受験で大事なことは？

中学受験で大事なことは生徒が長い時間集中して座って勉強していただけるか、毎日コツコツ勉強できるかが大きなカギです。

いわゆる勉強ができるという意味での「頭の良さ」も大事ですが、もっとも大事なことは集中力です。

私立中学は入ってからかなりの勉強が求められます。

例えばこの近隣の大阪国際中学さんの上のクラスでは中3で先の文理学科のように英検2級と同等に近い英単語を学習します。

それだけの努力をもとめられますので、集中して勉強をやり切る体力と集中力がなければ入学してもついていけなくなります。

・ 中学受験をおすすめする理由

中学受験をおすすめする最大の理由は、あまりに授業態度が悪い生徒がまずいないことです。

私立中の授業においては、だれもが中学受験をクリアしているので、授業中に「まず座れ」「とりあえず後ろ向いて話すな。」という指導を先生がしているという話はききません。

公立中は残念ながらクラスによってはこれがありえます。

すると、勉強を真面目にしたい生徒の邪魔になります。

なお、アシストではそのような生徒さまは、申し訳ないですがご入塾できません。あるいは退塾いただきます。

・ 国語算数が苦手な生徒は英語受験もおすすめです。

最近では国語・英語で受験できる学校や、国語・算数・英語で受験できる学校もあります。多くの学校では難易度も高くありません。

英語での受験もおすすめです。

・ アシストでは中学受験の情報は各学校から直接入手しています。

アシストでは中学受験の情報は各学校にお伺いしたり、ときには訪問いただいて、直接受験情報や合格の目安の情報を入手しています。

ネットの情報ではなく実際の情報をお話します。

英語教育について

次に英語です。

2023年の共通テストが難化したことが話題になりました。

センター試験の時代と比べても量だけで1.8倍程度です。

特に英語の配点が共通テストにおいて200点中、100点がリスニングです。

ペーパーテストしかしたことがない生徒が、いきなり高3でリスニング対策をしても、これではなかなか点数はとれません。

これがどのくらいの難易度かと言うと、英検でいうと2級以上、準1級未満程度というところでしょうか。

上位層であれば準1級レベルは求められるでしょう。

2級レベルでは時間が足りなくて解けないでしょう。

これがどういうことを表しているかと言うと、高2修了時では英検2級レベルに達していないと対策が厳しいということです。

高1で準2級は確実に必要になります。

理想は高1の前半に、英検準2級を取得しておきたいです。

大学受験を目指すなら、遅くとも高2で準2級は取得したいです。

関関同立以上なら高2で2級レベルの単語力は必須レベルです。

アシストではそのペースを目指しています。

中2の夏休みあけに3級を合格するのが目標です

リスニング対策としては、当塾でも推奨していますが、私立中学では英検、学校によってはTOEICを受験させています。

アシストでも英検対策を通じて、リスニング、スピーキング対策を行っています。

そして、中高一貫校で英語のいいところは、文法の授業とリーディングの授業を分けて行うことです。

公立は中高一貫校ほど文法をしっかりと学習しません。

そういう意味でもアシストでは学校以上に文法をしっかりと学習していただいています。

※公立の大手前高校以上をねらうには中3で2級取得が理想。

大手前高校では合格者の6割が英検2級を取得しています。

四條畷高校では45%が英検2級を取得しています。

北野高校では95%が英検2級を取得しています。

背景としては文理学科の英語の問題があまりに難しく、英検2級を取得し、英検資格で受験したほうが確実に合格点をとれるからです

英検2級は合格するだけなら単語と型を覚えてしまえば6割ちょっとで合格することが可能だからです。

正直相当な努力が必要になりますし、小学生からの本格的な英語教育が必要になります。

英検取得のすすめ

アシストでは英語対策として英検対策を推奨しております。

まず、英検の難易度について簡単にお話しましょう。

・5級 中1前半程度。

・4級 中1+中2の一部

4級は平均点以上の中1生であればほぼ合格できます。

4級と5級にはそれほど大きな差はありません。

ただ、年間で受験できる時期が限られているので、できれば小学生から中1の間に合格したいです。

中学2年になると、あまり受験する意味はありません。

・3級 ほぼ中2の範囲、一部中1。

中1~中2の一学期くらいに通塾頂いてる生徒であれば、中2の2学期くらいに合格できます。

英検3級を受験するメリットとしては、中学英語の基礎的な単語および文法の概要が習得できることです。

英検3級をできるだけ早期に合格できれば、英語が苦手科目になることはありません。

もし受験がおそくなっても、中学英語の基礎固めとして受験をおすすめしています。

・準2級

中学英語がほぼできたうえで、高校英語の単語や文法が一部出題されます。

五ツ木の偏差値60前後であれば合格する可能性も十分あります。

単語が苦手でも英作文とリスニングで高得点をとれば合格できます。

・2級

高校卒業程度などといわれますが、中堅私大レベルです。産近甲龍以上だと英検 2 級が合格できるレベルの英語力がないと合格は厳しいかもしれません。

一定レベル以上の大学では2級をできるだけ早く合格するのがポイントです。

なお文理学科で上位の高校を目指す場合は中学の間にとっておきたいです。

かなりの努力が必要ですが、リスニングと英作文で高得点を取れば可能です。

・準1級

合格できると満点を貰える大学もあります。

英語が得意な生徒は取得したいです。

※難関大学を目指すための道しるべ

難関大学に合格するのは、できるだけ早く英検 2 級レベルの単語力やリスニング力を身につけると事が大事です。

国公立大ルート

高2の一学期、おそくとも2学期には2級を取得していきたいです。

すると、中3～高1に準2を取得しておく必要があります。

関関同立ルート

国公立大とほぼ同じ。

産近甲龍ルート

遅くとも高2修了時～高3一学期には2級を習得したいです。

産近甲龍を目指す生徒にとっては準2と2級の間には壁を感じると思います。

できるだけ早く準2級を取得することです。

英検を取得するメリット

2級が一つのゴールになりますが、英語を得意科目にしたいひとは準一級もめざしましょう。

2級は難易度的には近畿大学の本番のテストよりは総合的には優しいです。

言い換えると、2級を合格する英語力がないと、産近甲龍以上は厳しいかもしれません。（もっとも人によっては、産近甲龍の英語のほうが解きやすいという人もいます。とはいえ、単語力に関して言えば同等レベルですので取得しておきたいです。）

従いまして、英語力の目安として英検 2 級を目指すのが大学受験の一つの道標といえます。

公立中対策について

・公立中で起こっている内申点の問題点

公立中に通われている方が気を悪くされては申し訳ないですが、コロナ禍以降、内申点が高くつく傾向にあります。

私の知人で、とある私立高校の教師がいるのですが、公立中学で通知表オール5の生徒で、一番成績の良い生徒と悪い生徒で本番の500満点ペーパーテストが200点の差がついているそうです。

つまり内申点と実際の学力があっていないのです。

また学校ごとの差もあります。

同じくらいの学力で、内申をみると学校が違くと平均で1ちがう生徒もいます。

学校によっては「4」や「5」の範囲が広すぎるのです。

ですから、高校受験という目線では内申点が高いことはもちろん重要なのですが、一方、大学受験という目線では実態よりも内申点が高くなるので、大学受験で苦勞するということが多々あります

・大学受験を意識した進路指導と情報提供

アシストでは大学合格を一つの目標にしています。

そのため進路指導やそのための情報提供も大学受験を意識したものを提供しています。

たとえば、大学受験を指導していない塾ではわからないことがあります。

それは、公立高校と、私立高校の大学受験の実態です。

あまり知られていないことですが、中堅レベルの高校であれば、同じ偏差値なら私立高校に進学したほうが遥かに大学受験はしやすくなっています。

まず、ひとつは私立は推薦枠が多く、公立は推薦枠が非常に少ないのです。

私立であれば評定で3.5程度あればどこか推薦を取れることが多いですが、公立では4を超えても取れないこともあります。

私立高校にはおいては推薦枠が余ることすらあるにも関わらず、同じレベルの公立では推薦枠がないのです。

もうひとつが、公立高校で行われている授業と大学受験の実態のギャップです。

簡単にいうと公立中堅高校では定期試験と大学受験が必ずしもリンクしていないのです。

こちらについて詳しくは高校生指導でお話いたします。

・公立中学におけるアシストの英語対策

次に公立中学校についてのアシストの英語対策をお話します。

繰り返しですが、学習指導要領の改定から英語が難しくなっています。

具体的にいうと覚える英単語だけでも以前と比べて1.5倍になりました。

以前であれば、I am, you are を学習している時期に、I want to などの不定詞も形だけとはいえ授業で学習しています。

多くの個別指導塾は週1回、80分から90分くらいの授業で行っていますが、勉強する量が増えているのに、以前と同じことをして同じ様に成績があがるわけがありません。

たしかに成績がアップする生徒もいます。

そういう生徒さんは平均よりもかなり上で、英語の基礎力がついている生徒さんです。

具体的にいいますと、英検3級を持っていると中学英語で根本的に躓くことはまずありません。

よって、アシストでは可能であれば中学2年、おそくとも中学3年の夏くらいまでに英検3級の取得をサポートします。

そのために、一定の条件のもと英検対策の授業を週1回の授業料と無料とさせていた
いております。

おおくの個別指導塾では英語、数学の週2回をとっている人が多いですが、アシストでは英語2回、数学1回の週3回を推奨しています。(それで授業料は週2回と同じです。)

・勉強がとにかく苦手な生徒様

勉強がとにかく苦手な生徒さん、たとえば500点満点で150点以下の生徒様、そのような生徒さまもやる気のある方は歓迎です。

もし、学校の宿題もまともに出したことない生徒さんであれば、科目にとらわれずまずは学校の宿題を完成させることから始めます。(ただし、副教科は対象外です。)

一緒に頑張ることで、まずは宿題をやりどけることから始めましょう。

宿題をきっちりやって、ノートなどの提出物をしっかりすれば定期テストの点数が悪くても通知表で3がつく可能性が高いです。

本番の点数よりも内申点で合格する学校選びをおすすめします。

まずは通知票オール3をめざします。

・5科目の定期テスト対策

中学生につきましては、これは中高一貫校生も同じですが、定期テスト前などには普段受講していない、理科・社会などの補講も可能です。

その場合は、必ずしも1:2の授業はお約束できませんが、無料で補講としてのテスト対策もご希望であれば可能な限りさせていただいております。

・ICT教材を活用した五科目指導または個別指導の選択

公立中生はICT教材を活用した自立型の個別指導と、講師一人につき、生徒二名までの完全個別指導が選択できます。

ICT教材は5科目で25,800円と低価格となっています。

※発達障害のある生徒様につきまして。

発達障害のある生徒様についての入塾はケース・バイ・ケースで対応させていただいております。

大変申し訳ございませんが、強度の自閉症などで周りの生徒様の勉強を乱す可能性がある生徒様は、専門家の不在のため入塾をお断りしております。

中高一貫校対策について

アシストでは公立中学よりも私立の中学、高校の生徒様が多く通塾されています。

当塾は2024年3月で4年目を迎えますが、この3年間で常翔学園、大阪国際、同志社香里、開明、帝塚山、奈良学園登美が丘、香里ヌヴェールの生徒さんに通塾いただいております。

また代表の前田自身、以前は大手の中高一貫校専門の個別指導塾に勤務していたこともございます。

公立中専門で運営されている塾様に比べてより生徒ごとに合わせた指導を提供させていただいております。

中高一貫校の生徒様については、学校ごとというより、担当の先生ごとに授業内容を合わせる必要があります。

よって、塾の内容も生徒様にあわせた指導をいたします。

ところで、これから中学受験をご検討のかたに参考になればとおもいますが、いわゆる偏差値の高い中学校がレベルの高い授業をしているかといえば、実はそうでもありません。

例えば、この近隣の私立中学さんとして、常翔学園さん、大阪国際さん、開明さんとありますが、中学入試の難易度としては開明さんが高いです。しかし、授業進度や難易度が大阪国際さんと大きく違うかというとは実はそれほど差はないように思います。

中学受験の難易度としては、常翔学園さんのほうが大阪国際さんよりやや高いイメージですが、カリキュラムのスピードは大阪国際さんの方が早いです。(特に英語)

京阪沿線でいいますと、同志社香里さんはかなり特殊です。

社会、理科はほぼ完全にオリジナルのカリキュラムですし、英語についてもネイティブ感覚に近い先生が教えているので、いわゆる受験英語では教えないような文法も教えるこ

とがあります。

アシストではそのような場合、基本的に学校の先生に合わせて授業をしますが、補足説明も行います。

・中高一貫校の注意点

中高一貫校の注意点としては、高校受験がないので、わからなくなってもそのまま進学してしまうことです。

これも特に英語が注意です。

中高一貫校で高3になってから挽回したいという生徒さんもいらっしゃいますが、相当の努力が必要です。

実はアシストの一期生の生徒さんがそういう生徒さんでした。

高3の一学期に入塾いただきまして、Are you と Do you から復習しました。

つまり中一英語からの復習です。

毎日6時間位ずっと英語の勉強をしていました。

結果どうなったかというと桃山学院大学に合格しました。

生徒さんの努力あってのことです。

しかし、そもそも嫌いな科目であったから今までやっていなかったわけで相当の覚悟と努力が必要です。

高校生指導について

・高校生、大学受験対策

先程申しましたように、私どもの指導方針として、大学受験を検討されているご家庭につきましては、高校選びの時点で大学受験意識した生徒様への進路指導および、保護者様への情報提供を行っています。

したがって、大学受験を意識しているご家庭につきましては、高校受験は一つの通過点として、高校受験の情報提供を行っています。

大学受験という観点で大阪近辺の高校選びを考えますと、東高校より下の偏差値ラインであれば、経済的に問題なければ私立高校を選んだほうが良いと思います。(すでに公立高校を選ばれた方は非常に恐縮ですが。)

その大きな理由は推薦枠です。

偏差値が同じ、いや、むしろ多少低くても私立のほうが、推薦枠が圧倒的に多いのです。数年前、旭高校の教え子が評定で 4.2 もあったのに推薦がとれなかったということもあります。(一般で合格しましたが。)

個人的には公立学校の問題だと思っていますが、それが現実です。

・高校生の英語対策

アシストでは生徒様にあわせて授業をしますので、学校の補講として学校に合わせた授業をすることもできますし、学校のカリキュラムを無視して、大学受験対策の授業をすることも可能です。

基本的には中高一貫校の生徒さんは学校にあわせた授業をします。

しかし、高 2 以上で入塾された生徒さんや学校のカリキュラムが遅い場合、逆に早すぎる場合は、大学受験を意識した独自のカリキュラムで授業を行っています。

とくに高 3 生になると、学校のカリキュラムに合わせる意味があまりありませんので、原則、学校にあわせず大学受験対策を行います。

そして、高 2 までに英検 2 級を取得することを推奨しています。

英検 2 級を取得すれば大学によってはほぼ合格点をくれる大学もあります。

また、自分でも英語の勉強を進めることができる基礎力が身についている目安にもなります。

・高校生の文系対策

産近甲龍以上の大学では多くの場合、英語、現代文、古文、社会の四科目受験になります。

偏差値でいうと摂南以下の大学や公募の一部は英語と現代文です。

つまり、産近甲龍以上を目指すか、それ以外かでやることが大きく変わります。

特に、中堅公立高校の生徒さんの場合、古典と社会が大きく負担になってきますので、高一からの通塾をおすすめします。

文理選択がまだでも、できるだけ早く英語の力を身につけるためです。

そして、古典の基礎文法を2年生の夏休み前には完成しておきたいです。

くわえて、社会については2年の間に一周はしておきたいです。学校によっては2年間かけて、教科書を一周する学校もありますが、それでは遅い、あるいは3年生がかなりきつくなります。

英語・古典・社会の基礎をできるだけ早期身につけることです。

また現代文については漢検準2級以上取得を目安に漢字の勉強をしつつ、アシストが提供するプロ講師による現代文の授業を取っていただくのがおすすめです。

・高校生の理系対策

理系に進まれる場合は、文系以上に早く進路を決めておく必要があります。

というのも数ⅢCがスケジュール的にかなりきついからです。

大学受験は一般試験が2月にあります。

ということは、1年生のときに1・A、2年生で2・B、3年生で3・Cとやっていると間に合いません。

特に神大以上を目指す場合は1・Aを高1の1学期くらいで終わって、2学期に2・Bに進む必要があります。

実際のところ東以上の高校はそれくらいもスピードで進みます。

先にお話しましたが、中高一貫校では中3で数学は高校分野にはいってきますが、何のためかという理系に進んだ場合、高2までに数Ⅲ・Cのほとんどを終わるためです。

大学受験対策の現状

さて、これまで述べたことを前提に大学受験対策についてまとめたいと思います。学校で真ん中より上の成績をとっているご家庭の多くはいずれ大学は意識されていると思いますので、参考にいただければと思います。

・大学全入時代

現在は少子化の影響により全大学の募集定員よりも大学志望者数のほうが少なくなっていると言われていています。

つまり、どこでもいいなら大学には誰でも入れるといっても過言ではないはずです。

しかし、にもかかわらず、大学はむしろ難化しているといってもいいです。

その背景には情報の格差があります。

たとえば私立大学の募集定員が100人だとして、そのうち半分は指定校推薦や、総合入試といった、学校の内申点で決まる推薦で埋まると言われています。

ということは、結果として、一般入試など本番一発勝負の募集の数が少なくなり、本番一発勝負の難易度があがります。

さらに推薦の多くは私立高校がもっており、私立高校では推薦があまることもありますが、公立では不足しています。

一学年の生徒数が200人ほどで指定校の枠が700人という私立高校もあります。

またカリキュラムの中身をみても私立高校のほうが大学受験に適している場合が多いです。

大学受験を前提にするなら公立高校なら、東高校以上の高校に入りたいです。

アシストでは高校受験は大学受験へのステップアップと考え、進路相談や情報提供を行います。

・偏差値の数字だけで高校選びをしては行けない時代

多くの家庭が生徒さんの学力でできるだけ高い偏差値の高校をめざす場合が多いです。

しかし、大切なのは出口です。

大学受験という目線では必ずしも偏差値の高い高校が偏差値の高い大学に有利とはかぎりません。

また大学をめざさない生徒さんも自分の進路を考えた高校選びをしたほうがいいでしょう。

偏差値の数字だけで高校は選ばないほうがいいでしょう。

・推薦を狙うか、上を狙うか。

大学受験は大きくわけて2つの受験方法があります。

本番一発勝負の試験を受けるか、推薦を狙うかです。

国公立の場合はほぼ本番一発勝負になりますが。

推薦は決まれば楽ではありますが、自分の行きたい学校に枠があるとはかぎりません。

さて、私立高校は多くの場合、入学時の学力によりコースが分かれています。(すべてのコースで推薦がある高校もありますが、少ないですし、勉強は良く言えば「生徒の自主性」という校風が多いです。)

ここでは便宜上、上のコースを特進コース、下のコースを普通コースといたしましょう。

※学校によってはすべてのコースが名前の上では「特進コース」になっているところもあります。

(ケース)

甲高校 特進コース：偏差値 60 普通コース：偏差値 55

乙高校 特進コース：偏差値 55 普通コース：偏差値 50

甲高校は特進コースが偏差値 60, 普通コースが偏差値 55, 乙高校は特進コースが偏差値 55, 普通コースが偏差値 50 です。

Aさんの偏差値は55です。

よって、甲高校の普通コースか、乙高校の特進コースにおそらく合格できます。

そして多くの場合、特進コースには推薦の枠がありません。

つまり、自分で本番で頑張れということです。

ただし、頑張ったらおそらく乙高校の特進コースのほうがより上位の大学に行けるでしょう。

どちらを選ぶか正解はありません。

しかし、実は高校入学前から大学進学はすでに始まっていると言えるのです。

アシストの考える良い授業とは

当然、生徒のやる気があがって成績があがって、志望校に合格するのが良い授業です。

しかしそれはあまりに抽象的な答えです。

ここでは個別指導塾におけるよくある誤解をお話しておきたいと思います。

・先生（講師）の教えている時間が長い授業が、成績が上がる授業とはかぎらない。

基本的に個別指導の良い授業は、講師が話している時間が短くて、生徒がペンを動かしている時間が長い授業が良い授業です。

生徒の多くは解き方や答えをすぐに知りたがります。

しかし大事なことは考えることや、勉強の仕方を学ぶことです。

講師はポイントだけ話して、生徒がペンを動かしている授業が良い授業です。

ただし例外もあります。たとえば高3の難しい数学や、英語の長文、さらに中学受験の国語などです。そういった授業は予め生徒が自習や宿題で解いてきて、講師の解説を聞いたり、わからないところを質問する授業になります。

このような授業は講師が話している時間が長くならざるを得ません。

しかし、平均レベルの中学生の授業はむしろ生徒がペンを動かしている時間が長い授業の方がいい授業です。

・通塾しているだけでは成績はあがらない

例えば週1回80分、宿題もなし。

こういう授業で結果ができるのは公立中学校の平均点以下の成績です。

基本的に成績が上位層の生徒、あるいは学年があがるほど、塾にきていないときの勉強法が大事になってきます。

たとえば、週1回80分の勉強で合格できる大学などありませんし、それで合格できるなら通塾の必要はありません。

アシストは自習スペースは営業時間中はいつでも利用できます。

また、補講も原則無料で行っています。

最低限度の宿題はもちろん、塾以外の勉強も行っていただきます。

特に中学受験生は授業以外の時間もしっかりと宿題の指示をいたしますので、自習スペースで行っていただき、わからないところはいつでも質問にお答えします。

・小中学生はしかります。高校生はしかりません。

個別指導塾の多くは集団授業ほど叱りません。

しかし、アシストは態度の悪い生徒や宿題をしない生徒は叱ります。

とくに中学生や中学受験生は集団塾のように叱ります。

場合によっては「帰れ。」とまでいいます。

当塾では補講も可能な限り無料でさせていただいております。そして自習スペースも提供しています。

よってまじめに勉強したい生徒に迷惑のかかる行為や宿題をしない生徒はしかります。

ただし、単にしかるだけでなく、可能な限り補講に呼びます。

一方高校生はしかりません。

勉強のやり方はお伝えいたしますが、やる気が云々という生徒さんは、まずはやる気になってからきてください。

- ・コピー機、ネット環境は無料で使用できます。

学校のプリント、塾の教材などのコピーは無料をご利用いただけます。

また最近ではデータでの課題提出や学校から解答を送られてくる場合も多いですが、wifiも無料で開放しております。

- ・自習スペース
- ・中学生はいつでも5科目質問可能。(高校生は科目によります)
- ・補講も原則無料
- ・コピー機、wifiなどの施設も無料開放

アシストは勉強できる最高の環境を提供しております。

やる気のある生徒様はぜひともお待ちしております。

個別指導学院アシスト 学院長 前田敏秀